

平成 21 年 5 月 8 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006 年度～2009 年度
課題番号：18530588
研究課題名（和文） 幼児期にふさわしい「学び」の過程を保障するカリキュラム・指導計画に関する調査研究
研究課題名（英文） An investigation on the curriculum and teaching plans that would guarantee the process of learning suitable for preschoolers
研究代表者 奥山 順子（Junko OKUYAMA） 秋田大学・教育文化学部・准教授
研究者番号：30361215

研究分野：幼児教育

科研費の分科・細目：社会科学・教育学

キーワード：教育学，幼児教育，カリキュラム，保育者の専門性，発達過程

1. 研究計画の概要

幼稚園教育において幼児期にふさわしい生活が保障されるための、「遊び」を通した「学び」の過程をとらえた教育課程および指導計画のありかたを探ることを目的とする。具体的には以下の3点について明らかにする。第一に、幼稚園教育におけるカリキュラム・指導計画について、保育現場がかかえる諸問題を、保育施設の変化という視点、保育者によるカリキュラム・指導計画の理解に見られる問題（特に発達観、保育観、幼児観）から明らかにする。第二に、真の「遊び」を通した「学び」の過程をとらえた計画、保育現場で保育者の発達理解に支えられ、保育実感と結びついた計画のあり方を提示する。第三に、保育者の専門性向上について、保育者の成長過程と現職研修のあり方、保育者養成のあり方の二つの方向からアプローチをする。

2. 研究の進捗状況

研究課題に対し、①保育者のカリキュラム理解に関する研究、②幼児期の発達と「遊び」の中の「学び」に関する研究、③保育者の専門性向上のための教育のあり方に関する研究、を中心として研究を継続、推進した。①については、秋田県内全幼稚園の保育者を対象とする調査により、保育者のカリキュラム理解の実情と課題を明らかにした。そこで明らかになった課題に対し、保育者の幼児理解、「遊び」理解を目的とする保育カンファレンスのあり方やエピソード記述による保育記録のあり方を実践者の取り組みを通して検討した。②の研究では、研究者2名がそれぞれに3年保育児の保育場面の縦断的観察・記録を実施し、3年課程の幼児の発達過程を、

遊びを中心とする生活の中での「学び」の観点で分析している。これらの研究は大学附属幼稚園との連携で推進し、幼稚園における園内研修会ならびに公開研究会において成果を提供したほか、外部講師と共にパネルディスカッションによる研究会を実施し、その記録を研究誌にて公表した。③では、前年度に引き続き保育者のカリキュラム理解の基盤を明らかにするために、遊びを中心とする保育を理解し保育実践を重ねてきたと考えられるベテラン保育者の意識の分析を聞き取りによってとらえた。保育者のカリキュラム理解と、「遊び」理解がどのような要因によって実現されるのかを明らかにすることを目的とし、保育者の保育に対する意識の背景を探り、保育の課題を意識化するために必要な、保育者のライフステージに即した課題を明らかにした。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

研究計画記載の研究を継続中であり、長期間の継続を要するものをのぞいて研究成果の発表、保育現場への提供を行っている。

4. 今後の研究の推進方策

記録の分析および、幼稚園のカリキュラム分析を推進する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

①奥山順子 幼稚園教育における「集団」の意味－3歳児の園生活への適応をめぐる－ 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 第30号 査読有 2008年 121-131

②奥山順子 保育者の資質としての「遊び」理解－保育者の「語り」にみる保育観形成過程－ 秋田大学教育文化学部研究紀要（教育科学） 査読無 2007年 第63巻 13-23

③奥山順子・山名裕子 幼稚園教育における計画の位置づけ－保育者の計画理解と「遊びを中心とする保育」 秋田大学教育文化学部研究紀要（教育科学） 査読無 2007年 第62巻 43-51

④奥山順子・山名裕子 求められる保育者の専門性と大学における保育者養成－保育志望学生の意識と養成教育の役割 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 査読有 2006年 第28号 119-132

⑤奥山順子・山名裕子 幼稚園教育における計画の位置づけ－保育者の意識調査にみる保育の計画性と保育者の専門性－ 秋田大学教育文化学部研究紀要（教育科学） 査読無 2006年 第61巻 83-90

〔学会発表〕（計5件）

①山名裕子 大学生の幼児期についての記憶（3）－楽しい「遊び」の経験と「学び」の関係から－ 日本心理学会第72回大会 2008年9月20日 北海道大学

② Yamana, Y. How university students remember their past events in early childhood The 20th Biennial Meeting International Society of Social Behavioral Development. 2008年7月16日 Wurzburg, Germany.

③奥山順子 幼稚園における保育の計画性の課題（2）－保育者の資質としての計画理解 日本保育学会第61回大会 2008年5月18日 名古屋市立大学

④山名裕子 大学生が考える幼児期の「遊び」の中の「学び」とは 日本発達心理学会第19回大会 2008年3月21日 大阪国際会議場

⑤奥山順子 幼稚園における保育の計画性の課題－「計画」に対する保育者意識からの考察－ 日本保育学会第60回大会 2007年5月19日 十文字学園女子大学

〔図書〕（計1件）

①都筑学（編）ナカニシヤ出版 やさしい発達心理学 2008年 88-103